

## 第1回新しい学校づくり推進委員会 会議概要

- 1 日 時 平成25年10月25日(金)  
開会：午後2時  
閉会：午後4時
- 2 場 所 大安公民館2階 大会議室
- 3 出席委員 森脇健夫 小林共子 小寺光紀 藤本孝徳 水貝明子  
児玉勝彦 山下秀人 井上征樹(代理 平塚辰郎) 三輪美紀  
近藤恵理子 吉野 睦 岡 正光 佐野謙二 渡部正利  
児玉由布子
- 4 欠席委員 織田泰幸 土岐昌男
- 5 出席した事務局職員  
教育委員長 川瀬正幸 教育長 片山富男  
教育部長 近藤重年 教育総務課長 小林幸次  
学校教育課長 小川専哉 自然学習室長 岡 忠義  
教育研究所長 近藤利彦 学校教育課課長補佐 岡本利和  
学校教育課課長補佐 北本吉宏  
教育総務課課長補佐 梶 正弘 教育総務課 大久保美佳
- 6 会議次第
  - 1 開会
  - 2 教育委員長あいさつ
    - ・委員の委嘱
    - ・委員の紹介
    - ・事務局職員の紹介
  - 3 経過報告(教育長)
  - 4 いなべ市新しい学校づくり推進委員会設置要綱について(教育総務課長)
  - 5 委員長の選任
  - 6 委員長のあいさつ
  - 7 議事
    - 日程第1 いなべ市新しい学校づくり推進ビジョン(案)について
      - ・意見交換
  - 8 その他
  - 9 閉会

## 7 会議の要旨

### 委員長の選任

- ・委員長に、三重大学教授 森脇健夫氏を選任
- ・副委員長に、三重大学准教授 織田泰幸氏を選任

### 日程第1 いなべ市新しい学校づくり推進ビジョン（案）について

（いなべ市新しい学校づくり推進ビジョン（案）について説明）

委員・「いなべ市新しい学校づくり推進ビジョン（案）」には、現在、各学校でそれぞれが取り組んでいることが総括的・総合的に取り入れられていると感じた。新教科として「いなべ未来科」などを創設することで、今まで教科外で少しずつやってきたことが本格的に取り組めて良い。

委員・新教科として5年ほど前から西藤原小学校では、「外国語活動」を新設して英語教育を実施している。子どもたちは、外国人の先生の自然な会話形式の授業を楽しんでおり、英語に慣れ親しむことができている。

委員・小中一貫教育では、9年間の中で節目をどう作ってやるのかを考えていかないといけない。異年齢の中で、子どもたちのモチベーションを高めるために、学年で段階的な目標が必要なのではないか。

委員・員弁校区は小学校が二つで、その二つの小学校の児童が員弁中学校へ進学する。現在すでに、小・中の連携として生徒指導のルールの共有化、小・小の連携として授業スタイルの統一が進められている。将来的には、新しい学校づくりの「小中一貫教育分離型研究指定校」としてこれらの取り組みが進められていくと考える。

委員・推進ビジョンの三つのコンセプト「学びのつながり」「仲間とのつながり」「未来へのつながり」は、素晴らしいと感じた。特に「未来へのつながり」では、新教科「いなべ未来科（仮）」を創設し、『地域社会の一員としての自覚を持ち、「故郷いなべ」を愛し、よりよい未来を創ろうとする主体的、実践的な態度を育む』とある。長い人生を考えたとき、学校を卒業した後の生き方がとても大切だと考える。地域を愛し、地域の中で自分が何か役に立ちたいといった思いの一端を「いなべ未来科（仮）」の中で育んでいきたいと考える。本校では、コミュニティスクールの取り組みが長年進められており、子どものため、学校のためには労を惜しまないという地域の方たちに支えられている。年一回開催される「石樽の里まつり」には地域住民と児童 1,300 人が集い、子どもたちは大変楽しんでる。子どもたちは、地域の人が自分たちのために学校に集ってやってくれている姿を見て、また地域の人と一緒に楽しくてくれている姿を見て、自分たちが大きくなったときにこの人たちをモデルにして、自分も何かやってみたいと感じている。「い

なべ未来科（仮）」を学習することで、「故郷いなべ」を愛する心が育っていくのではないかと考える。

委員・私の勤務する学校は、地域の学校だと日々実感しているが、学校がなくなるということは、今まであった地域力が弱まるのではないかと心配している。「いなべ未来科（仮）」に書かれている各校の特色を活かした新教科の創設、人・自然・歴史・文化・産業など地域の教育資源を活用した学習、地域社会の一員としての自覚を持てるようになど、これらを柱にしていくことが大切だと考える。

委員・推進ビジョンでは、小中一貫教育のねらいを 6 点示してあり、また「より質の高い教育を実現することが子どもたちの幸せを保障する」というキーワードを基に、どんな子どもたち像をめざすのかが明確で、良いと感じた。また、いなべの教育としては、いつもの授業を学校の核にして、教職員の資質向上、さらに地域との連携と、今までいなべの教育が大事にしてきたことが網羅されながらも、より発展的にねらいが書かれていたと思う。

授業スタイル・ルール統一については、現在も授業スタイルやルールの統一を大事にしている。どの子どもも学びやすい授業スタイルということが大切で、そのための授業スタイル・ルール統一にしていかななくてはならない。

委員・いなべ市教育研究会が中心となって、現在も中学校区ごとの連携を進めている。その連携をさらに進める方法として、小中一貫教育があるのだと感じた。中学校区ごとの一貫したものは何かを探っていくことが必要であると思う。

委員・「学びのつながり」について、小学校高学年での一部教科担当制で、中学校の先生に小学校に来てもらうというのは、中学校の先生が大変なのではないと感じた。新教科は、授業になるのか、どの授業枠を削るのか、全校合同の授業として一時間を取る枠なのか、それぞれの学年にまかせるのか、などの課題がある。また、新しい教科が入ってきたときに、子どもたちが何をしているのかわからなくなっていくように配慮が必要だと思う。

委員・日々痛感しているのは、学習習慣の前に生活習慣を身につけさせなくてはいけないということである。今の子どもたちが勉強時間を確保できないのは、生活習慣が乱れているからだと感じている。中学校になると部活動が入ってきて、小学校でつくってもらった生活スタイルが崩れてしまっている可能性があるのではないかと。また、小学校でトイレに計画的に行けない児童がいたり、中学校の道徳の教材で今まではこちらの伝えたいことが十分伝わっていたのに、今の子どもたちは理解する力が乏しく驚くような感想文を書いてきたりする。小中連携に関連して、これらの問題も考えていく必要がある。

委員・今後、日本の人口が減少していくなか、いなべ市の子ども数も減少が見込まれる。

今回の推進ビジョンでは、地域の役割が示されているが、子どもが少なくなっていく中で地域とのつながりがさらに重要となる。推進ビジョンではそういった面もしっかりと考えたうえで、小中一貫教育を進めていくべきである。

委員・いなべ市としても、地域の活性化のためにいろいろな取り組みをしている。いなべの良さを知ってもらい、その定着を図り、その良さを市外の方に発信していくことによって、交流人口が増え、市が発展していくと考える。推進ビジョンにある人・自然・歴史・文化・産業などの教育資源、そして、観光資源など、将来の子どもたちが、「いなべ未来科（仮）」で学んでいくことは大事なことであると感じた。特色ある教育活動は、魅力あるまちづくりであると考えている。

委員・いなべ市では、保育園で支援の必要な子どもを小学校へ繋いでいく取り組みを行っている。ときには小学校の校長先生に保育園へ見学に来てもらったり、保育園から巣立った子どもたちの姿を保育園の方々に小学校で見てもらおうなどしている。今後もこの繋がりを進めていきたいと考えている。

委員・この推進ビジョンを見ていて、なぜ今まで小学校と中学校が分かれていたのかと感じた。小学校から中学校へ上がるときに、なぜ境があるのかと思う。今まで小学校と中学校をなぜ分けていたのかという観点に立って、これからの一年間、協議をし、いなべ市が良い方向に向かっていければと考える。

「いなべ未来科（仮）」では、いなべ市がアピールされ、これからの子どもたちが自分はいなべ市の出身であると胸を張って、そして世界に羽ばたいていけるようになってもらいたい。そうなるように、私たちの年代が力を尽くさなくてはならないと実感している。

委員・今、藤原地区の小学校では年々児童数が減少しており、体育の授業では2学年を合わせてもサッカーなどの多人数の競技が出来なくなってきている。また、いなべ市PTA連絡協議会の活動への保護者の参加が減りつつあり、保護者の意識も変わってきているのではないかと感じている。

委員長・委員の皆さんから忌憚のないご意見をいただきました。社会、学校、子ども、すべてにおいて時代の変化の波が押し寄せており、日本は変化していくだろうという中で、いなべ市の学校教育の課題は必然的に生まれてくると思う。それに対して、今回はひとつのビジョンを示してもらったと感じた。「新しい学校づくり推進ビジョン（案）」の内容に対して、委員の皆さんからは、積極的な評価もあったし、期待もあった。一方、具体的な問題になると、不安や懸念も示されていた。例えば、学校がなくなったときにどうするのかを考えていく必要があるし、教職員の負担についても具体的にこういう施策を進めていく際に解決しなくてはならない問題がたくさん出てくると考える。また、保護者については、学校の改革とズレがあ

った場合に、どのように保護者を巻き込んでいくのか、啓発していくのか、など共通の認識をつくる取り組みが重要である。これらすべては、この新しい学校づくり推進ビジョンの是非にかかっていると考える。今後は、これらの問題を委員の皆さんと一緒に考え、ひとつひとつ解決していきたい。

委員・新しい学校づくり推進委員会の会議は、公開という扱いで良いのか。

事務局・本日の会議内容については、後日、会議概要が公開となります。今後の委員会についても、会議ごとに会議概要が公開となります。

第 2 回以降の委員会への傍聴人等の申請があった場合の取り扱いについて、この場で協議をお願いしたいと考えています。

なお参考までに、昨年に開催された小学校適正規模検討委員会は、傍聴の申請があった場合は公開としました。

委員長・小学校適正規模検討委員会では公開とした経緯もあることから、第 2 回以降の会議について、公開としたいと思いますが、ご異議ありませんか。

委員・異議なし

委員長・新しい学校づくり推進委員会の会議は、公開とします。

委員・推進ビジョンの地域への説明はいつ頃から始めるのか。

事務局・推進ビジョンについては、平成 26 年 3 月までに推進ビジョンの骨子を作成したいと考えております。その後、詳細については引き続き議論をお願いしていく予定です。地域への説明の時期としては、特に関わりが大きいのは藤原地区です。藤原校区の複式学級の解消が急務であるため、藤原校区の 5 つの小学校に関しては、推進ビジョンの策定と並行して、早い時期に地域の方に進むべき方向性を説明していきたいと考えています。

## 8 その他

- ・今回配布した「新しい学校づくり推進ビジョン（案）」は、未定稿であるため、資料等の公表は控えていただきたい。